

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は明治40年に設立され、今年で創立118年を迎える工業高校である。35,000名を超える卒業生は産業界や自治体など様々な分野で活躍し、産業社会の発展に大きく貢献している。

これまで幅広い分野で産業社会を支える人材を輩出してきた本校は、今後も「大阪No.1の工業高校」として経済社会の様々な情勢の変化に対応し、技術者・科学者として必要な力を身につけた人材を育成するとともに、社会の発展に貢献するために引き続き重要な役割を担っている。

これらをふまえ、本校では次の項目を目標に、その実現に向けた教育活動を実践するものである。

- 1 工業・科学技術分野の理論と技術を支え、将来の科学技術イノベーションを牽引する技術者・科学者として求められる資質・能力の育成。
- 2 Society 5.0で実現する社会に必要とされる高度で確かな知識・技術を習得するとともに、国際的な舞台でリーダーとして活躍し社会に貢献できる力の育成。
- 3 全ての教育活動に主体的・協働的に取り組むことを通じて、課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度の育成。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 新しい知識・情報・技術があらゆる領域で重要性を増す「知識基盤社会」において、知識の理解の質を高めることで確かな学力を身につけさせるとともに、技術者・科学者として必要な資質・能力を育成する。

ア 「Society5.0」で実現する社会を担うための力、国際社会を生き抜く力の育成に向け、ICTの活用による効果的・効率的な授業を実践することで学びに対する意欲を向上させ、「知識基盤社会」において必要な確かな学力を身につけさせる。

イ すべての教育活動を通じ、課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育むことで専門的な知識・技術の定着をはかるとともに、多様な課題に対応するための課題解決能力を育成する。

※学校教育自己診断（教職員）の質問「授業においてICT機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和9年度には90%以上を維持する。

(R4 75% R5 92% R6 97%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「授業においてICT機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和9年度には90%以上を維持する。

(R4 81% R5 91% R6 92%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「グループ学習や自ら調べて考える学習、課題を発見し協働して取り組む学習などの授業において、授業内容がよく理解できたか」に対する肯定的回答率を令和9年度には90%以上にする。(R4 82% R5 89% R6 88%)

(2) 生徒が、基礎的・基本的な知識や技能の習得も含め、学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の興味・関心等に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行うことにより、個に応じた指導の充実をはかる。

ア 生徒の自己実現に向け、少人数授業や習熟度別授業、グループ学習を展開するとともに、授業内容の改善により理解度、満足度を向上させる。

イ 工業科目で学んだ内容に関連した職業資格や各種検定試験にチャレンジすることはもとより、職業資格を取得する意義、職業との関係、職業資格を制度化している目的について探究する。また、技術者・科学者として国際的な舞台で活躍できるよう、実用英語能力検定などにもチャレンジすることで4技能5領域にわたる総合的な語学力を習得する。

※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校に入学して学力が身についたと感じていますか」に対する肯定的回答率を令和9年度には85%以上にする。

(R4 77% R5 79% R6 77%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思いますか」に対する肯定的回答率を令和9年度には95%以上にする。(R4 89% R5 89% R6 89%)

※英検等の受検者のうちCEFR A2レベル以上の資格取得者を令和9年度には30%以上にする。(R4 20% R5 26% R6 29%)

## 2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、たくましく生きる力を育むために必要な資質・能力を身につけることができるよう、基本的な生活習慣を確立させ、社会のルールを理解させる。

ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行い、「時間を守る」「身だしなみを整える」「集団としてのルールを遵守する」ことを通じて道徳心や規範意識を醸成する。

イ 合同LHRを活用し、交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座を行うことで道徳心・自制心を育み、自他を大切にするとマナーを守る態度を育てる。

※遅刻が常態化する生徒（年間遅刻10回以上）を令和9年度には15名以下とする。(R4 30名 R5 25名 R6 18名)

※交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座の事後アンケートによる肯定的回答を、令和9年度には全て95%以上にする。

(R4 交通安全講話 91% 薬物乱用防止啓発講座 88% 消費者被害防止啓発講座 95% R5 93% 91% 95% R6 93% 92% 92%)

(2) 他者を尊重し思いやる心、適切な人間関係の構築に向けたコミュニケーション能力、多様性を受け入れる力などを育むための人権教育を推進し、人権尊重のための知識や態度を養う。

ア 自分自身はもとより、人との関わり、集団や社会との関わりに関する道徳的価値についての理解を基に、様々な体験や思索の機会等を通して人としての在り方生き方について考えを深めさせる。

イ 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育てるため、自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育を徹底し、技術者・科学者としての倫理を醸成する。

※学校教育自己診断（生徒）の質問「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」に対する肯定的回答率を令和9年度には95%以上にする。(R4 89% R5 92% R6 91%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」に対する肯定的回答率を令和9年度まで95%を維持する。(R4 95% R5 95% R6 94%)

(3) 卒業後の社会的・職業的自立や自分らしい生き方を実現する中で社会貢献できるよう、キャリア教育の充実をはかるとともに、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する。

ア 企業や大学の見学をはじめ、外部講師による講演会・説明会（進学・企業就職・公務員）などを通じ、進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める。

イ 実力テストの結果や過去の大学入試データなどに基づき、各教科と連携した定期的な進学補講を行う。

- ウ キャリアパスポートノートを作成させることで、自己のキャリア形成はもとより Society5.0・SDGs に関する内容にも触れ、情報化やグローバル化、地球環境などに対する意識付けをはかる。
- エ 生徒会活動を活性化し、部活動を推進することによって生徒一人ひとりの自主性・社会性を育む。
- オ 生涯にわたって自分らしい生活を実現するために、心身の健康や体力の保持増進をはかる。
- ※令和9年度まで就職内定率100%を維持する。(R4 100% R5 100% R6 100%)
- ※大阪工業大学の専門高校特別推薦合格率を令和9年度には80%以上とする。(R4 84% R5 82% R6 68%)
- ※部活動加入率を令和9年度には75%以上とする。(R4 72% R5 72% R6 72%)

**3 専門的な知識・技術の定着**

- (1)各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して自ら学ぶ意欲を高めるとともに、様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う。
- (2)興味関心の増加をはじめ、将来に向け最も重要である進路決定につなげるため、社会において必要な専門資格試験や検定に積極的にチャレンジし、合格率を高めるとともに、多くの生徒にジュニアマイスター顕彰を受彰させる。
- ※学校教育自己診断(生徒)の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思うか」に対する肯定的回答率を令和9年度には95%以上にする。(R4 89% R5 89% R6 89%)
- ※ジュニアマイスター顕彰受彰者を令和9年度まで毎年60名以上輩出する。(R4 96名 R5 75名 R6 72名)

**4 学校の組織力向上**

- (1)全教職員が一丸となって組織的に本校の魅力について対外的に発信し、志願者増に繋げる。
- (2)将来計画委員会等において本校の更なる魅力化について検討を進める。
- (3)PTA、同窓会や各種団体などとの連携による教育コミュニティを構築し、教員個々の教師としての力量を高めるとともに、学校力向上に向けた環境整備をはかる。
- (4)長時間勤務の縮減に向けた取組みや時間外在校等時間管理・健康管理を行うとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど、「働き方改革」に取り組む。
- ※入学者選抜における志願倍率を、毎年1倍以上確保する。(R5 選抜 0.86 R6 選抜 0.98 R7 選抜 0.94)
- ※学校教育自己診断(生徒)の質問「本校に入学して良かったと思うか」に対する肯定的回答率を令和9年度には90%以上にする。(R4 82% R5 85% R6 86%)
- ※本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を、毎年各学科1回以上開催する。
- ※時間外在校等時間月平均80時間以上の教職員を、令和9年度には5.0%以下を維持する。(R4 13.1% R5 3.0% R6 4.6%)

**【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】**

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>昨年度実施した学校教育自己診断アンケートの結果と今年度の結果を比較し分析する。各質問での「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答の合計結果の今年度%と昨年度 [%] は以下のとおりである。</p> <p><b>【生徒】</b></p> <p>「学校へ行くのが楽しい」 <b>81%</b> [86%]</p> <p>「学校生活についての先生の指導は納得できる」 <b>77%</b> [81%]</p> <p>「将来の進路や生き方について考える機会がある」 <b>96%</b> [94%]</p> <p>「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 <b>90%</b> [90%]</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」 <b>76%</b> [73%]</p> <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 <b>91%</b> [91%]</p> <p>「体育祭(文化祭・修学旅行)は楽しく行えるよう工夫されている」                  体育祭 <b>91%</b> [91%] 文化祭 <b>90%</b> [92%] 修学旅行 <b>85%</b> [87%]</p> <p>「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」 <b>89%</b> [87%]</p> <p><b>【保護者】</b></p> <p>「学校に行くのを楽しみにしている」 <b>88%</b> [88%]</p> <p>「授業がわかりやすく楽しいと言っている」 <b>76%</b> [73%]</p> <p>「学校の生徒指導の方針に共感できる」 <b>87%</b> [89%]</p> <p>「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 <b>95%</b> [94%]</p> <p>「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 <b>87%</b> [88%]</p> <p>「子どもの生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」 <b>96%</b> [94%]</p> <p>「教育情報について、提供の努力をしている」 <b>93%</b> [94%]</p> <p>「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」 <b>90%</b> [86%]</p> <p><b>【教職員】</b></p> <p>「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 <b>95%</b> [97%]</p> <p>「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 <b>82%</b> [85%]</p> <p>「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」 <b>86%</b> [79%]</p> <p>「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 <b>96%</b> [95%]</p> <p>「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」 <b>86%</b> [89%]</p> <p>「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談するこ</p>	<p>第1回(6月13日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度学校経営計画及び学校評価について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・全委員の賛成を得られた。</li> </ul> </li> <li>○令和10年度学校特色枠入試について</li> <li>○令和7年度年間行事予定について</li> <li>○令和6年度進路状況について</li> </ul> <p><b>【質疑応答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒にタブレットは配られているのか。授業ではどのように活用しているのか。</li> <li>→「全校生徒に配っている。課題の提出や調べ学習に活用しながら表計算ソフトなどを使っている。</li> <li>3DCADも徐々に導入しているがこれからはもっと広げていきたい」</li> <li>・ジュニアマイスター顕彰について3年間で大きく数値が落ち込んでいるように見えるがそれはなぜか。</li> <li>→年度によって色々な原因もあるが生徒数が減っていることも原因だと考える。それでもしっかり取り組みれば数値は上昇すると考えている。</li> <li>・小学校から中学校までの9年間で自分の技術をもって社会でどう活躍できるかという「大人になる科」というものに取り組んでいる。都島工業の専門性や物づくりの楽しさに子どもたちにも早くから触れてもらいたし、そういう取組みが都島区から広がってくれたらうれしい。</li> <li>→地域の小学校も本校に見学に来ている。ぜひ近くの小学校にもお声かけいただきたい。</li> </ul> <p>第2回(11月20日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設見学</li> <li>○令和7年度現在の進路状況について</li> </ul> <p><b>【質疑応答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次応募内定率が例年よりも低い数値になっているのだがそれはなぜか。</li> <li>→一次応募内定率は85.7%であり昨年よりも低くなっている。企業の方が厳しくしている傾向にあり、他の工業高校工科高校も同じ傾向にある。また成績上無理している生徒もいるのが理由になっているとも考えられる。</li> </ul> <p>第3回(1月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題研究発表会見学(都市工学科・理数工学科)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドの工夫が見られる発表があった。</li> <li>・学科によっては、伝統的に教員が厳しい質問をしていた。</li> </ul> </li> <li>○令和8年度学校経営計画及び学校評価                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・全委員の賛成を得られた。</li> </ul> </li> <li>○令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の確認を全委員で行った。</li> </ul> </li> <li>○現在の進路状況について</li> </ul>

<p>とができる」88% [94%]                  「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」96% [97%]                  「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」92% [97%]</p> <p>今年度のアンケート結果について、生徒・保護者の評価はほとんどの項目で昨年同様の評価になった。高い評価になっているのは本校の教育活動に対し教職員が昨年度の結果を踏まえ今年度の教育活動を改善し実践したことに対する肯定的な評価であると考えます。</p> <p>生徒では「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の評価が高い数値になっており進路指導の充実を生徒自身も実感してくれていることが分かる。「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」も微増ながら上昇していると同時に90%にも届きそうな数値(89%)になってきた。これは1人1台端末に対して生徒自身も慣れてきただけでなく、教員側も端末の活用に対する知識や工夫が増えてきた結果だと考える。こういう部分にも昨年度より始まった教員間の相互授業見学が機能し学校全体の教育活動がより充実してきた結果だと考える。</p> <p>保護者では「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」が90%となり前年より微増ながら増加している。連絡ツールや SNS を使った保護者への連絡が徹底された結果ではないかと考える。</p> <p>教職員では「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」86%と7ポイント上昇している。教育相談や支援教育などを通して生徒情報を共有する会議を定期的に行い、リモート授業も含めて生徒一人ひとりの実態や状況に合わせて個別最適な学びに少しでも近づこうと団結している結果と考える。</p> <p>来年度はポイントをより上昇することを目標に教職員の連携を密にして教育活動を行っていききたい。</p>	<p>【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に入学して学力がついたと感じている…77%。残り23%をどう考えているか。                      →ICTの活用も含めて学習ツールをどのように活用して学力を向上させるか考えたい。</li> <li>→数字だけでなく中身を見ながら生徒の声を大事にして取り組んでいきたい。</li> <li>・85%の生徒しか入学に満足していない。残り15% (100人程度)が満足していない。これは学校の魅力が原因か。                      →入学後に自分に合わないと感じることもあるかもしれないし、学科の選択にずれを感じている生徒がいるかもしれない。</li> <li>・漢陽工業高校との交流はどうだったか。                      →全校集会で学年別の報告会を行った。それを見ると満足度の高い交流だったと考えている。</li> <li>→来年度はスペインへの訪問も予定されている。経済的に高額になるが浪速工業会からの援助もあり、10人程度は参加できるようにしたい。</li> <li>・定員割れや地域との交流をどう考えているか。                      →近隣の小学生にも来校いただき、工業高校を見学してもらいたい。</li> <li>→来年度、理数工学科で1クラス減になり8クラス募集になる。引き続き広報活動に注力していきたい。</li> </ul>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ア ICTの活用による効果的・効率的な授業を実践し、学びに対する意欲・学力を向上させる	(1) ア 全ての授業において1人1台端末を積極的に活用するとともにリーディング GIGA ハイスクール研究校に整備されたプロジェクタや電子黒板などの設備を効果的に活用する。座学においては視覚的アプローチ等を積極的に行い、実験や実習においては1人1台端末を活用した統計処理や動画検証を行うなど、ICTの活用で教育効果を高める。また、新たに導入されたVRソフトを積極的に実習で活用する。	(1) ア・全ての授業において、1人1台端末等を積極的に活用し、教職員アンケートにおける「授業でICT機器を活用している」との回答90%以上を維持する  [97%]  ・また、授業においてICT機器を活用している時間を、授業時間の30%以上とすることを目標とし、生徒アンケートにおける「授業でICT機器を活用している」との回答90%以上を維持する  [92%]	(1) ア・教職員アンケートの「授業においてICT機器を活用している」100% (◎)  ・生徒アンケートの「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」93% (○)
	イ 課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力をはぐくむことで専門的な知識・技術の定着をはかる	イ 工業技術基礎・実習・課題研究をとおしてPBLを実践する。これにより発見した課題について、解決策を見出すためのディスカッションを行う過程でヒントを与え、生徒同士で議論を深めさせる。そうすることで思考力・判断力・表現力を養うとともに、研究の成果をまとめ、発表することでプレゼンテーション力を向上させる	イ 学年・学科ごとにPBL発表会を開催し、研究成果を共有する。3年生の課題研究発表会では1・2年生が見学する機会を設け、次年度以降に取り組む自身の研究内容についてイメージをもたせる。また、1・2年生が回答するアンケートにおいて、「3年生の研究内容にかかる評価」を80点以上とする  [82点]	イ 3年生の課題研究発表会を1月に実施。5学科の1・2年生へのアンケート「3年生の研究内容にかかる評価」の回答の平均結果は83点であった (○)
	(2) ア 習熟度別学習・グループ学習を展開し、積極的かつ協働的に学ぶことを通じて理解度、満足度を向上させる	ア 各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、問題を提起し、グループ学習を中心としたアクティブ・ラーニングを実践することで互いに教え合う雰囲気醸成する。それらを通じて積極的に学びに向かう態度を育成し、授業の理解度、満足度を向上させる	(2) ア・生徒アンケートにおいて、「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」とする回答を85%以上とする  [81%]  ・保護者アンケートにおいて、「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」に対する肯定的回答を80%以上とする  [73%]	ア・「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」81% (△)  ・「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」76% (△)
	イ 職業資格や各種検定試験にチャレンジするとともに	イ PBL学習を通じて職業観を高め、その実現に必要な知識・技術や資格との関連について調	イ・第三種電気主任技術者3名以上の合格者を輩出する  [2名(上期)]	イ・第三種電気主任技術者(上期) 2名合格 (○)

府立都島工業高等学校

	<p>に、職業資格を制度化している目的について探究する</p>	<p>べ学習を行う。その上で、めざす資格を取得するための目的を明確化させるとともに、自己のキャリアイメージを具体化し、資格取得に向けた強い志を養う。その結果、高度な資格にもチャレンジすることでめざす職種、めざす学部を意識した進路選択を実現する。また、知識・技能審査の一つである実用英語技能検定等の資格取得を奨励し、対策講習の実施を通して合格者を増加させる</p>	<p>・測量士補 15名以上の合格者を輩出する [11名]</p> <p>・進学において国公立大学、工業高等専門学校、私立大学（関関同立・産近甲龍）への進学率を30%以上とする [32%]</p> <p>・英検等の受検者のうちCEFR A2レベル以上の資格取得者を25%以上にする [29%]</p>	<p>・測量士補 24名合格（◎）</p> <p>・21% 計26名/進学者125名 国公立大学4名 高等専門学校1名 関関同立12名 産近甲龍 9名（△）</p> <p>・全体の24%がCEFR A2レベルに相当している（△）</p>
<p>2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ</p>	<p>(1) ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行うことで道徳心や規範意識を醸成する</p> <p>イ 合同LHRを活用し、自他を大切にす心とマナーを守る態度を育む</p> <p>(2) ア 様々な体験や思索の機会等を通し、人としての在り方生き方について考えを深めさせる</p> <p>イ 様々な情報を正しく安全に利用するための知識・スキルの習得に向け、情報モラル教育を徹底する</p> <p>(3) ア 進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める</p> <p>イ 進学希望者に対して定期的な進学補講を行うことにより、進学率を向上させる</p> <p>ウ キャリアパスポートノートにおいて自己のキャリア形成をはじめ、地球規模での課題である環境にも意識をめぐらせる</p>	<p>(1) ア 登校時の遅刻指導や身だしなみ指導、スマートフォンの校内使用規定に関する指導を行い、時間を守る、身だしなみを整えるなど、集団でのルールを遵守することの意義や必要性について繰り返し指導する。そうすることで社会の中で協働し、力強く生き抜くための基礎となる道徳心や規範意識を醸成する</p> <p>イ 合同LHRを活用して交通安全講話・薬物乱用防止啓発講話・消費者被害防止啓発講話を行うことで道徳心・自制心をはぐくみ、自他を大切にす心とマナーを守る態度を育てる</p> <p>(2) ア 全ての教育活動をとおして人権教育を推進することはもとより、学年ごとにテーマを設定した人権学習会、外部講師を招聘した人権講演会を開催し、人としての在り方生き方について考えさせる</p> <p>イ 成年年齢の引き下げに伴う消費者責任をはじめ、政治や社会への積極的な参画に向け、関係教科・HRでの指導、外部講師による情報モラル講演会を実施し、情報モラルの向上をはかる</p> <p>(3) ア・公共職業安定所や大学・専門学校と連携し、各学年を対象にキャリア教育に関する講演会・説明会を開催する ・講演会等を活用することで早期の段階から進路に関する意識を高めさせ、就職希望者の内定率を高い水準で維持する</p> <p>イ・高専編入学希望者一人ひとりに応じた学習計画を立案し、数学や英語などの教科と連携し、編入学試験対策補講を実施する ・進学補習を通じて例年50名以上が進学する大阪工業大学の過去問に取組み、合格者数を増加させる</p> <p>ウ キャリアパスポートノートを通じてSociety5.0の時代に生きる人材としての役割、AIの果たすべき役割等について学習させ、情報化に対する意識、興味・関心を高める</p>	<p>(1) ア 年間遅刻が10回となる前段階から親身になって対話を行うなど、粘り強く繰り返し指導することにより、遅刻等が常態化する生徒を20名以下に減少させる [18名]</p> <p>イ 各種講演の内容を充実させることにより、講演会後のアンケートにおいて、講演内容を十分理解し、「自身はもとより、自他の健康や安心安全について改めて考えるよい機会になった」との肯定的な回答が85%以上を維持する [92%]</p> <p>(2) ア 学年別学習会、外部講師による講演会後のアンケートにおいて「人権に関する考えがより深まった」という回答が95%以上を維持する [98%]</p> <p>イ 生徒アンケートにおいて「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」との質問に対し、「できる」との回答が90%以上を維持する [94%]</p> <p>(3) ア・進路に関する講演会・説明会を各学年とも年5回以上行う [1学年5回、2学年5回、3学年7回]</p> <p>・就職内定率100%、一次内定率90%以上を維持する [就職内定率100%、一次内定率96%]</p> <p>イ・特色ある進路選択の一つである工業高等専門学校への編入学試験合格率70%以上を維持する [86%]</p> <p>・大阪工業大学の合格者40名以上を維持するとともに、同大学の専門高校特別推薦入試において、70%以上の合格率を維持する [49名 68%]</p> <p>ウ キャリアパスポートノートについてのアンケートを実施し、情報機器を用いて進路に関する情報を収集している割合を全学年とも75%以上にする [1年85% 2年95% 3年98%]</p>	<p>(1) ア 遅刻指導10回以上の生徒 30名（△）</p> <p>イ 交通安全講話 3年92%・2年94%・1年94% 全学年93% 薬物乱用啓発講座 3年96% 消費者被害防止啓発講座 1年91%（○）</p> <p>(2) ア 人権学習 1年 拉致問題99% 2年 部落問題95% 3年 闇バイトについて97%（○）</p> <p>イ 「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」96%（○）</p> <p>(3) ア 1年生 進学関係 3回 就職関係 2回 2年生 進学関係 3回 就職関係 3回 3年生 進学関係 4回 就職関係 3回 ・就職内定率100%、一次内定率87%（△）</p> <p>イ・工業高等専門学校4年次編入学試験 1名合格/4年次編入学希望者2名 50% 奈良高専 1名（△）</p> <p>・大阪工業大学合格者 33名 専門高校特別推薦入試 12名/16名(75%) （△）</p> <p>ウ 1年86% 2年90% 3年91% （○）</p>

<p>エ 生徒会活動の一層の充実と部活動のさらなる活性化により帰属意識や自治意識を高める</p> <p>オ 学校保健活動を充実させ、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する</p> <p>カ 学科の枠を超えた生徒情報の共有化に努めるとともに、教育相談体制を充実させ、生徒に寄り添った支援を行う</p>	<p>エ・生徒議会、朝の挨拶運動、都工祭（体育祭・文化祭）を通して生徒会執行部がリーダーシップを発揮し、生徒主体の学校行事をつくり上げる</p> <p>・スポーツや文化、科学等に親しむことで学習意欲、体力、技能を向上させ、責任感、連帯感の涵養等につなげるため、部活動をより活性化することに取り組む</p> <p>オ・職員保健委員会及び生徒保健委員会の活動をさらに活性化させ、学校保健活動の充実をはかるとともに、教職員・生徒の心身の健康や体力を保持増進するための啓発活動を行う</p> <p>・生徒に対する保健指導、健康相談などを学校医等関係諸機関と連携して行う</p> <p>カ・生徒支援委員会での情報共有体制を強化するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により全教職員が一丸となった生徒支援を行う</p>	<p>エ・生徒議会を10回開催し、生徒の意見を集約・実践することで開かれた学校づくりを行う [10回]</p> <p>・部活動加入率70%以上を維持する [73%]</p> <p>・全部活動の入賞を20回以上とし、部活動の活性化に繋げる [19回]</p> <p>オ・職員保健委員会及び生徒保健委員会を年5回以上実施し、年間を通じたテーマを定め研究活動を行い、成果を発表する [5回]</p> <p>・定期健康診断の結果、再受診が必要な生徒に事後措置を複数回行い、70%以上の生徒の再受診を完了させる [77.8%]</p> <p>カ・生徒アンケートにおいて、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」という肯定的回答を75%以上とする [73%]</p>	<p>エ・生徒議会を11回 (○)</p> <p>・部活動加入率は76% (○)</p> <p>・全部活動の入賞は65回 (◎)</p> <p>オ・職員保健委員会を5回、生徒保健委員会を6回実施した。 生徒保健活動を自主的な活動となるよう役員を中心に今年度の保健活動の内容を【おそうじ心に経験値～意識一つでLevel up!】と決め前期保健委員でポスターを60枚作成し校内とトイレ内に掲示した。後期保健委員の活動で文化祭の展示・体験を行い300人以上の来客者を迎え好評を得た。(○)</p> <p>・6月に内科・眼科7月に耳鼻科・歯科の欠席者用の検診機会を設け、長期欠席者を除いて100%受診させた事後措置は、検診時および夏休み前に受診を勧める文章を2回配布した。また、担任や職員保健委員に協力してもらい、受診できていない生徒を個別に呼び、7月から1月にかけて、各学年3回ずつ9回の健康相談を実施した。 1月現在で内科92.0%、尿検査86.7%、視力84.6%、眼科100%、歯科69.1%、耳鼻科100%、全体としては80.7%の受診が完了しており継続しての指導の効果が現れた。(○)</p> <p>カ・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」76% (○)</p>
--	--	--	--

<p>3 専門的な知識・技術の定着</p>	<p>(1) 各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う</p>	<p>(1) ・「レスキューロボットコンテスト」に参加し、災害救助に関する取組みを通じて技術を学ぶだけでなく、協同し、災害に強い社会を創生するという共通課題の解決をめざす ・建築設計競技にチャレンジすることで専門的知識を向上させるとともに、コンペで認められるための資料づくり・プレゼンテーション技術の向上をはかる ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）にチャレンジし、現在の建築技術をはじめ、伝統工法による技術・技能を継承する ・「ものづくりコンテスト（測量部門）」にチャレンジし、外業とデータ処理を通じて測量スキルを向上させるとともに、国家資格である測量士補試験に合格し、技術系公務員としてのキャリアにつなげる ・「コンクリートカヌー競技大会」「橋梁模型コンテスト」などものづくり系競技大会に出場し、制作過程の学びを通して専門的技術を習得させる ・工業6学科ごとの先輩講座やOB進路懇談会を開催し、技術者としての在り方や進路選択の方法について学ばせる</p>	<p>(1) ・レスキューロボットコンテスト本選出場 [本選未出場] ・建築設計競技入賞 [3名入選] ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）近畿大会出場 [近畿大会2名出場] ・ものづくりコンテスト（測量部門）入賞 [7位] ・コンクリートカヌー競技大会入賞 [製作の部2位 アイディアの部3位 競漕の部1位 総合の部1位] ・棟梁模型コンテスト入賞 [入賞せず] ・各学科で先輩講座を1回以上開催する。受講後にグループディスカッションを行い、技術者・科学者としてのあり方について考えさせ、それに関するレポートを提出させる [6学科中5学科で1回以上実施]</p>	<p>(1) ・レスキューロボットコンテスト未出場（-） ・大阪府公共建築コンクール（1名入選） ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）大阪大会で上位入賞し、近畿大会に2名が出場し、4位と5位であった（○） ・ものづくりコンテスト（測量部門）7位（○） ・コンクリートカヌー競技大会 製作の部3位、アイディアの部4位 競漕の部2位、総合の部2位（○） ・棟梁模型コンテスト 3橋出品 入賞せず（○） ・6学科中5学科で1回以上実施した（○） 機械科：2月実施 機械電気科：5月、11月実施 建築科：6月（2・3年）、10月（1年）実施 都市工学科：6月（2年）、12月（1、3年）実施 電気電子工学科：10月実施</p>
	<p>(2) 各学科で専門資格試験にチャレンジし、合格率を高めるとともに職業と資格の関連を理解させ、明確な進路意識を確立する</p>	<p>(2) 各学科で以下の資格試験に取組み、学ぶ意識の向上につなげるとともに、ジュニアマイスター顕彰受表彰者を60名以上輩出する ・技能検定機械加工普通旋盤作業3級 ・技能検定機械検査機械検査作業3級 ・機械保全技能検定機械系保全作業3級 ・機械製図検定 ・2級建築施工管理技士補 ・建築大工技能士 ・建築CAD検定 ・測量士補 ・2級土木施工管理技士補 ・第三種電気主任技術者 ・第一種電気工事士 ・第二種電気工事士 ・基本情報技術者 ・ITパスポート ・危険物取扱者（乙種第4類）</p>	<p>(2) 各資格検定等の合格率を次のとおりとする ・ジュニアマイスター顕彰 計60名以上 [72名] ・普通旋盤作業3級 50%以上 [100%] ・機械検査作業3級 70%以上 [55%] ・機械保全技能検定3級 70%以上 [100%] ・機械製図検定 70%以上 [46%] ・2級建築施工管理技士補 40%以上 [45%] ・建築大工技能士3級 80%以上 [100%] ・建築大工技能士2級 2名以上 [3名] ・建築CAD検定3級 60%以上 [100%] ・建築CAD検定2級 50%以上 [79%] ・測量士補 25%以上 [14%] ・2級土木施工管理技士補 85%以上 [58%] ・第三種電気主任技術者 3名以上 [2名、全国高校生合格者ランキング第6位] ・第一種電気工事士 60%以上 [64%] ・第二種電気工事士 70%以上 [60%] ・基本情報技術者 3名以上 [5名] ・ITパスポート 15名以上 [7名] ・危険物乙種第4類 25%以上 [34%]</p>	<p>(2) ・ジュニアマイスター顕彰 52名（△） ・普通旋盤作業3級 100%（○） 6名受験6名合格 ・機械検査作業3級 86%（◎） 28名受験24名合格 ・機械保全技能検定3級 100%（○） 14名受験14名合格 ・機械製図検定 47%（△） 43名受験20名合格 ・2級建築施工管理技士補 57% 30名受験17名合格（○） ・建築大工技能士3級 100%（○） 10名受験10名合格 ・建築大工技能士2級 3名（○） 3名受験3名合格 ・建築CAD検定3級 100%（○） 16名受験16名合格 ・建築CAD検定2級 86%（◎） 7名受験6名合格 ・測量士補 30%（○） 79名受験24名合格 ・2級土木施工管理技士補 65%（△） 37名受験24名合格 ・第三種電気主任技術者（上期）2名（○） [上期・全国高校生合格者ランキング第2位] ・第一種電気工事士 73.9%（上・下期合計） 46名受験34名合格（◎） ・第二種電気工事士 71.4%（上期のみ） 63名受験45名合格（○） ・基本情報技術者 6名合格（○） ・ITパスポート 7名（△） ・危険物取扱者乙種4類 31%（○） 35名受験11名合格</p>

## 府立都島工業高等学校

4 学校の組織力向上	<p>(1) 6学科を有し、進学にも就職にも強みのある本校の魅力を積極的に対外的に発信する</p> <p>(2) 国際交流に積極的に取り組む</p> <p>(3) 将来計画委員会を通じて、本校のさらなる魅力化について検討を進める</p> <p>(4) 本校独自の教育コミュニティを構築し、学校力向上に向けた環境整備をはかる</p> <p>(5) 教職員の働き方改革を推進する</p>	<p>(1) 学校ホームページ、体験入学、学校説明会、公開授業、出前授業、文化祭等で中学生はもちろんのこと広く大阪府民に本校の魅力を発信し工業高校のよさを理解してもらうとともに、志願者増に繋げる。また、国内外からの学校視察を積極的に受け入れ、本校の魅力を積極的に発信する</p> <p>(2) 姉妹校であるトレボール職業学校 トラバイ高校(スペイン)や友好連携校である漢陽工業高校(韓国)をはじめとする海外の学校と積極的に交流を行うことにより、生徒の国際感覚を醸成し、国際社会において、地球的視野に立ち主体的に行動するための態度・能力を育成する</p> <p>(3) 将来計画委員会を定期的に開催し、府教育庁とも情報交換をしながら、学科制を維持することによる本校のさらなる魅力化について検討を進める</p> <p>(4) 本校同窓会「一般社団法人浪速工業会」や外部団体との連携による「教員のための技術講習会」を行う。また、教員間の学習会・授業見学を積極的に行い、意見交換を通じて自己研鑽に努める</p> <p>(5) 教職員一人ひとりが校務に対する取り組み方について見直すとともに、「学校部活動に係る活動方針」を遵守する。また、毎週1回の全校一斉退庁日を設定するとともに、毎月2回の定時退庁日を各自で設定するなど、教職員一人ひとりが時間外在校時間の縮減に努める</p>	<p>(1) ・学校ホームページを年間150回以上更新し、日々の学校の取組みを伝える 〔377回〕</p> <p>・文化祭に3,000人以上の一般の方に来場してもらい、本校生徒の様々な教育活動の成果を広める 〔3,408人〕</p> <p>(2) ・海外の学校等による本校への視察を3回以上受け入れる 〔3回〕</p> <p>・海外の学校等の生徒とのオンライン交流会等を3回以上実施する 〔5回〕</p> <p>(3) ・他府県の先進校を2回以上訪問し情報収集を行う 〔2回〕</p> <p>・魅力化を検討するうえで中学生のニーズを把握するため、中学校との情報交換の場を年5回以上設定する 〔5回〕</p> <p>(4) ・各学科で年1回、本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を開催する 〔6学科中4学科で開催〕</p> <p>・教員間による授業参観期間を2回以上設定し、他教科の授業を参観し意見交換することにより教員としての見識を広める 〔年2回実施〕</p> <p>(5) 時間外在校等時間月平均80時間以上の職員5.0%以下を維持する 〔4.6%〕</p>	<p>(1) ・286回更新(○)</p> <p>・文化祭来場者数3722人(○)</p> <p>(2) ・漢陽工業高校を受け入れた。</p> <p>・トレボール職業学校よりインターンシップ実習生2名を2ヶ月間受け入れた。(○)</p> <p>・漢陽工業高校とのオンライン交流を4回。 (○)</p> <p>(3) 1回実施。工業設備の導入について参考になった。(△)</p> <p>・中学校教員対象の進学懇談会を1回実施。府下の中学校管理職との中学生のニーズについての情報交換を4回実施。(○)</p> <p>(4) ・3科で技術講習会を実施した(△) 機械科 製造現場について受講 電気電子工学科 PLC講習会を実施 建築科 鉄筋組合の講習会を実施</p> <p>・教員間の授業参観期間を年2回実施(○)</p> <p>(5) 時間外在校時間月平均80時間以上の職員4.0%(○)</p>
---------------	---	--	---	--